



目指せ、大河ドラマ「立花宗茂と閻千代」

長洲町は、閻千代姫のお墓(ぼたもちさん)がある立花家ゆかりの地であることから、柳川市と連携しPRに取り組んでいます。

(広報ながす全6回連載 提供：柳川市)

●問 まちづくり課 商工観光係 (☎78-3219)

第5話

柳川藩主への復活



大名に返り咲いた宗茂

宗茂は、関ヶ原合戦で敗軍の将となり、浪人の身となってから5年の月日が流れた慶長11(1606)年9月。ようやく2代將軍徳川秀忠に拝謁が叶いました。こうして長年の浪人生活を終え、奥州南郷(現在の福島県棚倉町付近)に1万石の領地を与えられ、大名の身分に復帰することができたのです。

宗茂が正式に「宗茂」へ

さらに慶長15年、宗茂は加増(領地などを増やすこと)を受け、領地高は3万石となります。実は、この連載では煩雑さを避けるため、「立花宗茂」という名に統一して書き進めています。正式に「宗茂」と名乗るのはこの年からなのです。旧家臣に送った加増を知らせる書状に「かたじけなき仕合せ、御推量あるべし」



と書いているように、このめでたい加増を喜んだ宗茂は、この機に改名したことが想像されます。これまで、波乱に満ちた人生の運気を切り開こうとするように、**統虎、宗虎、正成、親成、政高、尚政、俊正**と次々と名を変えてきましたが、「宗茂」となつてからは生涯この名を使い続けます。

大阪の陣では將軍の軍事的相談役

南郷に領地を得た後も、將軍の側近く仕えるため江戸を離れることがあまりなかった宗茂に代わり、家臣の**由布惟次、斎藤統安、十時惟昌、因幡宗札**らが在地で支配に当たっていました。この頃の宗茂は、秀忠の警護や江戸城の守衛としての役にあつたようです。慶長19年の大阪の陣では將軍の軍事的相談役を務めたと言われるように、武人として高い信頼を得ていたことが想像されます。

田中家が断絶 柳川藩主として復活した宗茂

関ヶ原合戦の後、筑後国は田中吉政の領地となりましたが、2代忠政に跡継ぎがないまま没してしまつたため田中家は改易されることとなります。そこで、宗茂に欠国となつた筑後の柳川へ再封の決定が下されるのです。一度改易された大名が再び同じ支配地に封ぜられるのは非常に珍しいこと。この再封が実現した理由はさまざま。必要な考えられますが、宗茂の実直な生き方と彼を支えた人々との絆が、奇跡の復活に導いてくれたのではないのでしょうか。

慶長5年の柳川城開城からちょうど20年後、再び大名として柳川城へ入城した宗茂。激動の時代をくぐり抜け、柳川藩10万9千石の大名家当主として新しい時代が始まりました。



出典：「東京と福岡(東京福岡県人会)、令和6年4月～9月」に連載された文章をもとに再構成したものの